

アサヒ

あべ晋三後援会会報紙

FRONTIER



4号





若手自民党代議士、 日本の将来を語る!!



プロフィール profile

荒井 広幸 (あらいひろゆき) 福島県選出

昭和33年5月15日生。
昭和57年に早稲田大学卒業。在学中は雄弁会に入部、幹事長として活躍。また徳永正利参議院議長国設秘書に就任。同62年には福島県議会議員に最年少当選。
“普通の家庭から国会へ”と地盤・看板・カバン無しで当選、持ち前の雄弁を活かし、自民党のホープとして期待されている。
〈著書〉『次代をたてる』『扶桑の国に來たりし友と語る』

塩崎 恭久 (しおざきやすひさ) 愛媛県選出

昭和25年11月7日生。
昭和50年に東京大学教養学部教養学科アメリカ科卒業後、日本銀行に入行。また同57年にハーバード大学行政学大学院を卒業し、平成2年に総務庁長官秘書官に就任する。
自民党では、金融問題専門家、国際派として活躍中。
〈訳書〉『アメリカの挑戦』

野田 聖子 (のだせいこ) 岐阜県選出

昭和35年9月3日生。
昭和58年に上智大学外国語学部卒業後、同62年に岐阜県議会議員に全国最年少議員として当選する。
政治改革については、改革派として活躍。田中真紀子議員と共にクワの女性自民党衆議院議員として注目を浴びている。
〈著書〉『アイアム聖イング』

安倍 晋三 (あべしんぞう)

司会 今度、自社連立政権が誕生しましたが、旧連立与党とどういふところが違うのですか。

荒井 安倍さんは、若手の中心的なメンバーで我々をリードして下さいますが、その安倍さんでも、社会党の政策転換が

こんなにスムーズに、またドラスチックに行われるとは思っていませんでした。

我々は、「二・一ライン」の姿勢と手法に民主主義の危機を感じて、自社連立政権を組んだわけですが、結果的には良かったと思います。つまり、自民党は金権を監視されますし、社会党は自民党によ

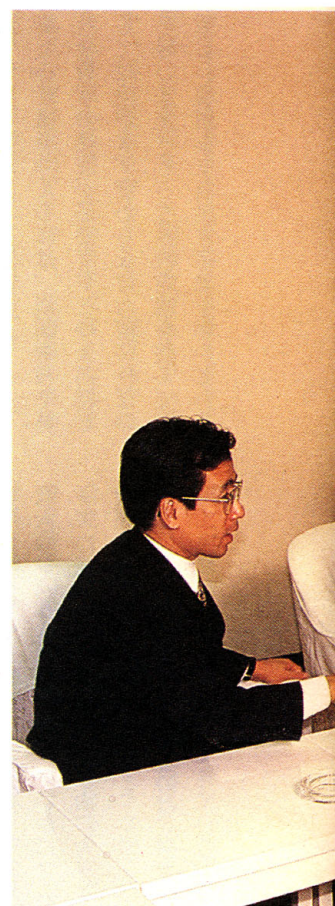


荒井 代議士

って、理想から現実政策に向いてきたという事です。

野田 私は当時、安倍さんと全く違う立場に立っていました。自社が結びついていくプロセスが見えなかったので、九月三日の社会党大会までは黙っていたように思っていたわけです。ところが、ふたを開けてみたら、信じられないような状況になっていて、政治というのは本当に生き物だなと思いました。きちんとした共通の理念の中でやるのなら、わだかまりもなくなるのではないのでしょうか。

今後の問題は、日本の国は成熟していますから、政策的には大きな違いは出てこないと思うんです。ただ気をつけなければいけないのは、中央での政策の一致が必ずしも選挙につながらない場合です。政策は合わせたけれど、選挙でぶつかって仲が悪くなる、ということではないかと思っています。



安倍 野田さんがおっしゃったように、連立へのプロセスの説明が不足していましたし、地方の県連で、自民党をずっと支えてきてくださった皆さんには、何だかという気持ちがあったと思います。しかし、我々が野党を経験している間に、旧連立与党、いわゆる「一ニライン」が、選挙制度の改正についてもかなり強引な手法をとりました。それに対して我々は大変な危機感を抱いたわけです。また、コメの問題などウルグアイ・ラウンドの決着についても、十分な議論をしていません。そういうやり方を許しては、日本のためによくはないと考え、あえて非常手段をとったということです。

社会党とは大きな政策的な違いがありましたが、必ずありあえるという確信はありました。結果として、想像以上に大きく変わって、自民党の政策とほとんど合致するところまできて、非常にうまくいきました。土俵が同じになったので、中身の議論が出来る時代になったと思います。

安倍 平成九年より消費税を五%にすることは、今回の減税に対応するためにやむを得ないことだと思っています。さらに今後、高齢化社会、少子社会が進んでいく中で、新たな負担を考えていかなければいけないと思います。そして、五%ということに決定した以上、高齢化社会に向けての明確なビジョンを示していく必要があると思います。新ゴールドプランはその一つです。

野田 マクロで見ると、直間比率の見直しは必要だと思えます。反面、消費税における公平さということですが、例えば食料品と装飾品が同じ税率では、消費者は公平さを感じられないと思うんです。そういう素直な庶民の気持ちを、消費税に反映していきたいですね。

塩崎 消費税率アップについて積極的に賛成する人はいないと思いますが、僕は一歩前進だと思っています。なぜかというと、国が事を起こすためには、やっぱり財源が必要ということを、社会党も含めて、ある程度みんなが納得したからです。

ただ、大蔵省が直間比率の見直しといっている点は、僕はやや懐疑的に見ています。

安倍 次回も、課税最低限を上げるとか、施設に入っている人や社会保障を受けている人たちには一時金をお支払いするという話ですが、逆進性を多少でもシステムとして緩和できるようなこと、例えば福祉の面で織り込むということをやらないと、いつも一時金でやらなければいけないということになって、歯止めが効かないし、理論的にもおかしいことになるんじゃないか、これが僕の意見です。

ただ、僕は、何で減税を五兆五千億円やると約束してしまったのか、いまだに理解できないんですが……。

安倍 細川さんがクリントン大統領と国内の議論抜きに約束してしまったでしょう。

塩崎 羽田さんも公約しています。景気対策と言いますが、景気対策だったら、景気がどうだから、どれだけ減税をやりましょうと決めなければおかしい

のに、景気の判断をする前に金額が決ま
っている。実に変な話ですね。一般人の
には減税は多い方がいいに決まっている
から、余りこんなことは言えないので
す……。

司会 円高による雇用の空洞化、生産の
海外調達ということが問題になっていま
すが、この点についてはいかがですか。

野田 日本は高学歴社会ですから、人件
費は高くなります。だから、コストを移動
させるのは仕方ないことです。そして、
それはいけないという意識ではなくて、
空いたところに先進的な産業を充当すべ
いと思うんです。例えば、これから
は福祉が国策の大きな問題点であり、柱
になってくる中で、新ゴールドプランで
言われているマンパワーの充実ですね。
ホームヘルパーとか、保育園の問題とか、
民間でなかなかやれないところに人が流
れていけばいいわけで、ソフトの部分に方
向性を見つけていきたいと思っています。
荒井 産業の空洞化は二つあると思うん
です。一つは働く場、企業が海外へ行っ
ている、もう一つは人材まで行ってしま
うということです。

人まで海外に行かないようにするには、
新しい産業を創造しなければいけません。
新しい産業をつくるには、規制緩和や新
社会資本の発想が必要で、その大前提と
して政治がまず変わらなければいけな
いと思います。もろもろの環境を整えて、
新しい雇用を生み出す産業を作っていく

——その一つがマルチメディア社会だと
思うんです。

司会 情報化社会のインフラ整備という
ことです。

荒井 インフラというと、光ファイバー
だけということになりかねません。そう
じゃなくて、新幹線を作ったのなら、旅
行に行く人、結婚式に行く人、仕事に行
く人、色々な目的を持った人が乗ってい
るはずですよ。そういった情報をどのよう
に流して、豊かで活力ある福祉国家づく
りのためのインフラとソフトの整備が大
事です。

安倍 私が主査をしている自民党の企画
委員会、野田さん、塩崎さんには副主
査で手伝っていただいています。産業
の空洞化にどう対応すべきかというレポ
ートをまとめる作業をしています。ただ、
私は雇用と収入が守られればこの空洞化
は恐くないと思うんです。それと同時に、
物づくりを忘れたら、たとえ第三次産業
が幾ら膨れていっても、資源の乏しい我
が国は生きていきません。ただ、日本は
賃金が高いですから、どんな政策を打っ
ても、現在ある第二次産業をそのまま根
付かせておくことは難しいと思うんです。
ですから、新しい産業なり仕事をつくり、
収入のレベルを落とさずに、いかにスミ
ーズに転換させていくかが政治の大きな
役割だと思っています。

そこで私達が着目しているのは、最近、
理工系に行く学生が減ってきている、と

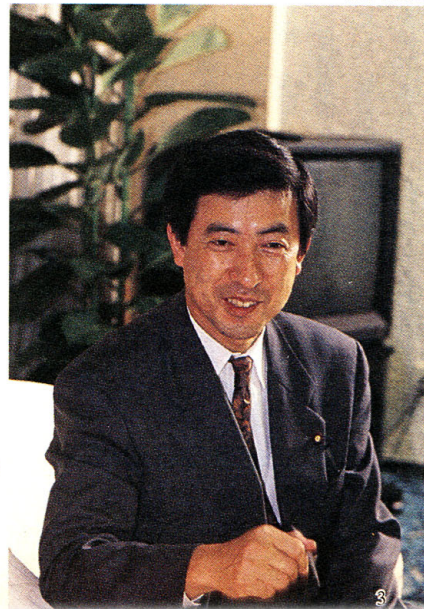
いう点です。更に、理学部とか工学部に
対する予算が大変少ないのです。今後は
この予算を思い切って増やして、日本に
第二、第三のエジソンをつくるのです。
そして、彼らが新しいものを産み出し、
それによって新たな産業が興り、雇用も
できます。幸い、我が国の教育水準は大
変高いですから、「エジソン計画」とい
うものをまとめたと思っています。こ
れはかなり長期的なスパンの話ですが、
短期的には、競争力の弱まった企業に対
して、新しい仕事なり会社をつくって、
スムーズに転換できるように国が応援し
ていくべきだと思います。

塩崎 安倍さんの意見に賛成ですね。空
洞化、空洞化と余り大騒ぎをする必要も
ないけれども、やっぱり大事な雇用
と実質賃金でしょうね。

実質賃金というのは、要するに、付加
価値が外に出ていってしまわないという
ことです。それを確保するためには、エ
ジソン計画みたいなことで、絶えず技術
がほかよりも進歩していきないと負けてし
まいます。中国を初め、ほかの国が追い
ついてこない間、今のうちに手を打って、
将来、産業が十分競争に耐えうる体質に
していくということを絶えずやっていか
なければいけないと思います。

あと、円高については、大体、生産性
の進歩と円高率というのは、日米間では
そう離れていないんですよ。だから、僕
は今の円は少し高いとは思いますが、さ
っきの空洞化との絡みもあって、やっぱり
これに耐えうるだけの体質にして、頑

塩崎 代議士



張っていかなければいけないということ
じゃないですか。

司会 金融の空洞化についてはどうで
すか。

塩崎 金融の空洞化については幾つかの
原因があつて、確かに土地が高いとか、
オフィスレントが高いとか、人件費が高
いとか、人材がいらないとか、いろいろあ
ると思いますが、通信行政による規制と
か、大蔵省の目に見える規制、目に見え
ない規制もあります。あるいは税制みた
いな大きな問題もあるので、そういう問
題も含めて今から直していけないと、日
本の金融市場というのは、外国の企業に
とつても、日本の企業にとつても、魅力
がなくなってしまうと思うんですね。現
に、金も人も香港やマレーシアに随分流
れています。



野田 代議士

司会 日本は今、一極集中が進んでいます。特に東京を中心として、関東地方に人も産業も集まっています。皆さんはそれぞれ地方選出ですから、その点についていろいろお考えだと思いますが……。

荒井 私は福島県ですが、地方分権、権力を分けるということ自体、お上の思考だと思えます。地方自立だと思えます。地方が自分のアイデンティティを確立して、そこに自分達の子供が、磁石じゃないですが吸いついていくようにするのです。そうするためには、財源的な裏付けがもちろん必要で、今回の地方消費税という形は、その一步として評価できます。ただ、一番大切なのは教育の環境づくりだと思っています。

私たちの地方では、共働きをして、やっとの思いで東京の学校に子供を進学させます。そうすると、女性の方なら東京でいい人を見つかれば結婚します。男性なら、戻ってきて勤め口がないから、都会に勤めて住んでしまいます。結局は、

親とお墓だけが残るんです。実は、こんなところに国内における空洞化もあるわけです。地域に生活できるような地方の自立、特に教育の環境づくりをするのが我々若手の役割です。

野田 私も荒井さんも少しの間、県会議員を経験していますが、県には財政力がないから、いろいろ提案しても、知事さんや各部長さんの答弁は、「国の主導で……」ということになって、自分たちの夢がかなわないわけです。要はお金がないということなんです。だから、税金のあり方を変えていかなければいけないと思います。消費税にしても、二%とか三%とか、アメリカのように県独自に決めるというのも面白いのではないのでしょうか。フリーハンドにさせてあげることが第一歩です。逆に地方の人たちは、それだけ責任を負うという自覚が必要なんです。

それから、国会決議で地方分権を推進するというのは決められているのですが、最近、国会決議って一体何なのかと思うんです。コメの問題にしても、三回も国会決議したことが、今ほごにされようとしています。それと、地方分権特別委員会が、今は全く機能していないそうです。国会を改革する上でも、そういうところにテコ入れをしていかなければいけないと感じています。

司会 次に、PKOに対する日本の国際貢献という問題について、将来的にはどうすべきですか。

安倍 今度、我が国が国連の常任理事国入り、ということを手をあげたわけですね。常任理事国になることによって、国連改革も行えるわけですから、私は常任理事国になるべきだと思います。しかし、なったからには理事国の権利と同時に責任なり義務があるわけです。二年前、PKO法案が通って、義務を果せる体制は整いました。

問題は、憲法との関係で、武力行使は一切行わないというのは当然だと思いますが、私自身としては、これで果たしていいのかという疑問があります。その意味で、憲法をもう一度考えていかざるを得ないと思っています。

今度、ザイルに自衛隊を派遣するに際して、機関銃を一部隊に二丁持たせるか、ゼロで行くかという点で、自民党と社会党との意見の違いがあつて、結局一丁持たせたわけですが、一丁では百八十度しか防衛できないんですね。普通の政治交渉と違って、今度の場合は人命がかかっていますから、二丁持つて行かないのであれば、出すべきではなかったと私は思っています。つまり、二丁かゼロか、ということなんです。危険なところへ行かからには、世界の常識に合った装備をしていかなければいけないと思います。ある程度の装備をすることによって、事故を抑止する力にもなるわけです。

野田 国際貢献という言葉は、政治改革と同じようにきれいで、また、まやかしの部分もあると思うんです。それでは日本が国際的に何ができるかというと、日

本の得意なこと、つまり経済力で世界の人になにかをして差し上げればいいのです。背伸びをしなくてもいいという大前提があります。

そして、常任理事国になったらすぐ武力をという、短絡的な話に今はなっているようですが、常任理事国になると、武力以外にもっと重いものを持たされると思います。それは何かというと、道義というか、倫理というか、モラルというか、自分たちが世界の国の人の命をどう考えるかという判断、インシアチブを持たなければいけないという怖さがあります。そこまで私たちは他国の人を思いやれるのか、その辺の議論を、国会において、もう少ししてもよかったのではないのでしょうか。

ただ、一つ信じてもらいたいことは、自衛隊がどこかに出ること、すなわち戦争への道、いつか来た道という思いが、私たちの一世代前の人たちには浸透しているけれど、私はそういう考え方が全くないんです。皆さんもないと思います。そういう意味では、特に若手の国会議員を信じてもらいたいですね。

荒井 テレビで、ルワンダの子供たちが死んだりするのを見て、こういうことをしてあげたいな、というふうにならないといけないと思います。ああ大変だな、痛いだろうな、つらいだろうなというんじやなくて、どうしようかという気持ちで、国際貢献の始まりだと思えます。

その上で、日本の役割なり責任の果たし方があると思うんです。憲法の範囲内

でということはもちろんですが、河野外相の演説に対する感想は、我が国は平和憲法という精神において、話し合いとか、経済というものを一つの裏付けにした援助で貢献するし、国連加盟国の皆さんも武力から平和解決の方向でやっていきましよう。そういう儒教的共生の理念を出してほしかった。

安倍 今度自衛隊が行ったのはルワンダではなくザイルのゴマですから、PKO五原則もきちっと守っています。我々はその事をもっと国民に説明しなければならぬと思います。それが国民の中で十分理解されていないところが、ちょっと問題だと思っています。

司会 政治が大きく動いていく中で、自民党も当然大きく変わっていくかなければいけないと思いますが、今後の自民党はどうなっていくのか、また、どういう方向で船を漕いでいくか、一言ずつお願いします。

塩崎 この一年間、あたかも改革というのは旧連立の専売特許のように言われていますが、これから自民党がやるべきことは、余り宙に浮いたような空論じゃなく、現実的な行政改革を先取りしてどんどんやっていくことじゃないかと思うのです。例えば、この三カ月間で、税制問題も先取りして答えを出しましたし、常任理事国入りについても、三党の間できっちりと話し合って、政府で決めました。そういう意味で、自民党も、今まで

と違って、改革を先取りしていくところを示していくことが大事じゃないでしょうか。それも十分な話し合いの中でやっていくことが大事で、だれか一人が決めて行くというようなやり方ではないかと思っています。

荒井 自民党の良さは何だったかというところ、喧嘩しながらも、一歩後退二歩前進という形で進んできたと思うんです。意見は噛み合わないが、お互い、認め合えるところを認めて、そして国民のために一ミリでも二ミリでも前に進めていく。そういう寛容の精神が今はなくなっています。人のつながりを含めて、自民党のいいところはたくさんあったわけですから、すべてが悪ではなかったし、そういうものを見直していきたい思います。

それから改革するところは、定年制を設けるということだと思います。小選挙区では一人しか当選できないのですから、新人が立ちづらひと言われています。しかし、政党が候補者をつくるんですから、政党で定年制を導入すれば、その分新人がどこかの選挙区に立つてくるわけで、そうすると新陳代謝も刺激もあって、国民の声も吸い上がってくるということになるのです。

野田 自民党というのは若手を育てない、そして、これからの世代の人達の共鳴が全然ない。これが自民党の致命的なところだと思っんです。

これから是非ともやらなければいけないことは若手の育成です。それも個々やるのではなく、党として本当にやって

いかなければ、この先の自民党は非常に辛いものが小選挙区でも出てくると思います。例えば、自民党の青年局とか青年部は、一般で言うおじさんの集まりなんです。普通の青年とのギャップを早くおかしと思わないと、いつまでたっても自民党の体質は変わっていかないのではないのでしょうか。それに連動して定年で区切りをつけてもらうという、両方をやっていかないとはいけないと思います。

安倍 自民党が金権政治などで大変な批判をされて、昨年の選挙で政権の座を追われたことを、我々は忘れてはいけないうると思います。そして政策決定の面では、民主的でガラス張りの政策決定システムづくりが必要ですが、最近、最高決定機関である総務会に若手が何人も登用されていますから、大変オープンになってきていると思います。

反面、適材適所という意味では十分でないところがあります。安定期であれば、年功序列型のほうが落ち着いた形になると思いますが、いまはまさに転換期、混乱期ですから、適材適所で思い切った人事を行うことが必要だと思います。また、思い切った若返りが必要です。

それから、定年制についてですが、比例区については定年制を導入しなければいけないと思いますが、小選挙区にまで定年制を導入すると、我が党のような大政党では、ある年齢以上の人たちの立候補の権利を失わせることになりますから、それは問題だと思っています。ただ、役職等については定年制を設けることは出来る

と思います。

政治改革が完成するにしたがって、腐敗の問題とは決別することが可能だと考えています。

司会 本日はお忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。

(この座談会は平成六年九月三十日、自民党本部にて行いました。)





信頼に応え、責任ある政治を!!

あべ晋三

六月二十九日をもって自由民主党は、約一年ぶりに政権与党に復帰しました。しかし第一党の我が党が数の上では半数以下、しかも結党以来、理念、政策あるいは政治路線において戦って来た相手でもある、社会党の党首を首班にかつぐという、我々にとっては苦しい選択による復帰でありました。

社会党との連立というのは、各地域で自由民主党を支えて来て戴いた地方党員の皆様にとっては、当然、大きな驚きと失望であったと思いますが、自社連立へ向かって動いていた私にとってさえ、いざ村山富市氏へ投票する時には気持ちの中に抵抗があったのも事実です。しかし昨年の八月以来のいわゆる一・ライン主導の強権政治に対する危機感が、我々にその壁を乗り越えさせたのではないかと思います。政策的には近い新生党と連立を組むべきである、と主張する人もいます。勿論、我々も保・保連合の道を真剣に検討しました。しかしながら旧連立側は保・保連合を、自由民主党を分裂させるという策謀としてしか考えず、真面目に正面から党と党の交渉には応じませんでした。

そうした中、社会党より政権構想が提出され、

我が党の新政権構想とつぎ合わせた結果、政合意が可能であると政務調査会で判断致しました。私も、羽田政権不信任へ向けての社会党の議員との議論を重ねた結果、彼らは連立政権参加による与党経験から大きく変わりとつあると感じました。我々と、政権を作ればもつとうまく転換出来るのではないか、そんな予感がしていました。しかし村山氏へ一票を投じる時には「村山さん、しっかりと決断して下さい」と神に祈る気持ちでした。現在のところ、見事に期待に答えていると思います。現政権は、民主的政治手法による良識ある政治を取り戻し、安定政権により景気を回復し、責任ある政治を行っていく使命を担っています。我々の選択が間違っていたという事にならない様、私も責任を果たして行きたいと思っております。そしてそれと同時に、次回の総選挙で自民党が勝利する為には、与党に復帰した今こそ、昨年なぜ野党に転落したかを思いおこし、党の刷新を計って行かなければならないでしょう。

今後とも我が党に対して、御指導御支援の程、宜しくお願いいたします。

あべ晋三 プロフィール

P R O F I L E

1954年(昭29)9月21日 安倍晋太郎・洋子夫妻の二男として生まれる。
1977年(昭52)3月 成蹊大学法学部政治学科卒業、引き続き南カリフォルニア大学政治学科に2年間留学。
1979年(昭54)4月 株式会社神戸製鋼所入社。ニューヨーク支社・加古川製鉄所・東京本社に勤務ののち1982年11月退社。
1982年(昭57)11月 外務大臣秘書官。
1986年(昭61)7月 自由民主党総務会長秘書。

1987年(昭62)10月 自由民主党幹事長秘書。
1991年(平 3)7月 故安倍晋太郎後継者としてあべ晋三後援会事務所を各地に発足。
1993年(平 5)1月 クリントン米大統領就任式に招かれ出席。
1993年(平 5)7月 衆議院議員初当選。
1993年(平 5)8月 外務委員に指名される。
1994年(平 6)7月 与党課題別調整会議の中の福祉プロジェクトの委員となる。
1994年(平 6)10月 自民党基本問題調査会の委員となる。
スポーツは、剣道、スキー、水泳、アーチェリー、テニス、ゴルフ、など万能。



グループ新風発会で幹事長に就任。右手前は田中眞紀子議員



亀井運輸大臣に下関人工島の予算獲得を要求

新風

新世紀へ向けて。



陳情に耳を傾ける代議士



日本の医療無償援助で建てられたチョーライ病院に患者を慰問



ベトナム戦争戦没者墓地に参拝し慰霊



ベトナム農地では農民とも歓談



チャン・デュック・ルオン、ベトナム副首相と会談

外交に強い代議士
ある時は友好ミッションで
ベトナム訪問。



ベトナムの可愛い子らと……子供好きの代議士

**ある時は親しく
ロシアの議員と交流。**



ロシア女性国会議員団と



ロシア国会議員との
夕食会で挨拶



グループ新世紀で小泉、加藤、山崎代議士（YKK）と協議



若手議員を代表して自民党の改革を訴える



自社連立へ向けて幹事長と打ち合わせ

薫る風、

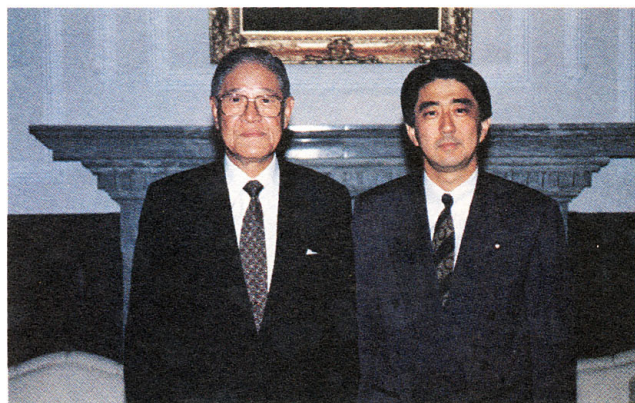
爽やかに



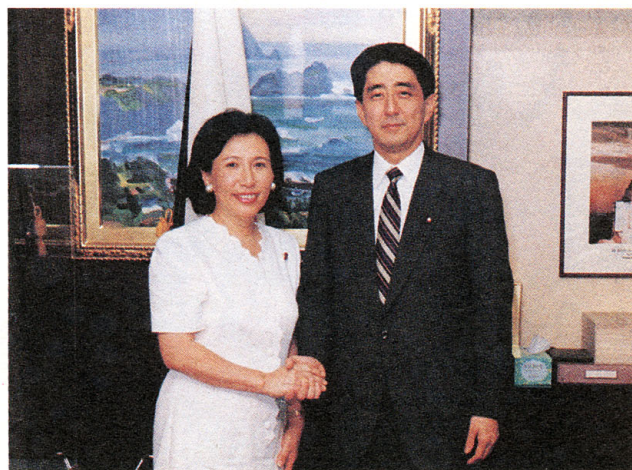
モンデール駐日米国大使と日米関係を話し合う



テレビ朝日のモーニングショーで...



李登輝台湾総統を訪問し会談



田中眞紀子科学技術庁長官と

年頭は「初心忘れず」の確認の日——。



アグネス・チャンさんと代議士夫妻によるトークショー



平和な豊かさを…と祈願

年年歳歳
こころ新たに。



素晴らしい社会めざして乾杯

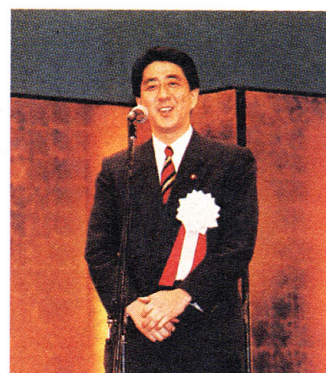


祝舞いは花柳佳寿広、三吉両師匠による連獅子

年年歳歳
こころ引きしめ。



温かい握手攻めに決意新たな代議士夫妻



新春の集いで挨拶



大歳神社に初詣で



会場いっぱい新春の顔、顔、顔



新春早々お手伝いくださった皆さんと



晋友医会



晋ク会



勝山晋友会



東部華洋会



南部若潮会

あの顔、この顔、ふるさとの顔

どんなことでも身近に聞いて、
出来ると判れば即、国政に反映。



歯科晋友会

室尾グループ、宝グループ、三河会などの皆さんと





豊浦町晋友会役員会

常に支援者の 温かいばなぞ!!

だからこそ
頑張らねば、と肝に銘じて。

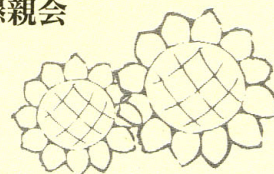
あべ・すみれ会の皆さんと



関釜親善バレーボール歓迎会にて



ひまわり会、永田本町グループ
合同懇親会



ある日、
ある時。

真心スピーチオンパレード。



油谷成人式



県美容組合総会



日本看護連盟下関支部総会



北島三郎・山本譲二を囲む会



山九会



中販連20周年記念

油谷町に於ける式典二題



油谷町新成人の皆さんと



新嘗祭献穀米抜穂式に出席した代議士

馬関まつり「平家踊り」6,000人の輪に
代議士も楽しく溶け込んで……



踊りつかれて夜は更けて



“ヤトエー ソラエーノ ヤトエーノエー”

正しい方向に

豊浦郡 主婦

「主人の秘書官になってから11年の間にあれこれ見聞しましたことを役立てて、日本のため、選挙区のために頑張ってくれればと思っております。」

毎日新聞の長期連載『女性たちが語る・新編戦後政治』に晋三さんのご母堂安倍洋子さんが、このように話して居られました。

そして、岸信介元総理大臣、安倍晋太郎元外務大臣、安倍晋三代議士と三代にわたる選挙を、「何度経験しても、それはそれは大変ですよ」と話しながら、それでも世襲に対する批判には「子供が本当に国政の場で働くつもりでいますのなら、全く関係のない方よりも、親を見て育っているのですからふさわしい」と、はっきりと答えていらっしゃいました。

また、「嫁の昭恵は、山口県で自転車で回ったりして進んでやってくれています」とあって、とても温かい親子関係が言外に語られているようで嬉しくなりました。

この母にしてこの子あり——の例えのとおり、混沌とするこの政界を正しい方向に導いて下さるのは、安倍寛、岸信介、安倍晋太郎の三先生の血を受け継がれた晋三さんをおいて他に居ない、と言ったら言い過ぎになりましょうか。いいえ、決して言い過ぎではありません。

国際的で外務に詳しく、景気への対応に敏感な、生まれながらの政治家晋三さんに、現在の難局を打破して欲しいと願う人々は私の周囲にも数えきれないほど確認できるからです。

そうです、その若さと情熱で存分にご活躍ください。



あなたを信じる

下関市 会社員

晋三さん、あなたが初めて国政に参加されたのは、自民党が分裂し、かなり厳しい逆風の中での選挙でした。そして自民党は残念ながら野にくまりました。

しかし、その時、あなたが言った言葉は実に見事であったと思います。確か、「自民党が今日まで進めて参りました政策は決して間違っていないかったと信じています。その結果として現在の豊かで平和な日本が存在すると考えています」という内容でした。そして、永い間の政権党としての心のゆるみが金権政治を生んだが、今こそ腐敗と完全に訣別すべきだと声高に言って居られました。

その後、細川内閣が羽田内閣へと移行し、自民党からも何人かが抜けて行きました。去る者は去れという気持ちですが、そのたびに私は、代議士はいつまでも自民党に残って党の建て直しに頑張ってくれと信じて参りました。

短命内閣が消えて村山政権が樹立し、かつて野合と言われた人々が振り向きざまに同じことを言っていますが、そんなことに耳を貸す必要はありません。野合の言葉は10指に及ぶ党派が一つになろうとする彼ら自身にこそ当てはまるものだからです。

それらの人々は村山首相の「人にやさしい政治」に対して「責任ある政治」を打ち出しましたが、村山首相は即座に「人にやさしい政治とは政治に責任を持つということだ」とやり返しました。胸のすく思いがしました。

現在の自民党と社会党は、かつてのそれではありません。いうなれば、幕末に相反した薩摩と長州が国のためを思って手を組み、あの維新をなしとげた薩長連合をほうふつとさせるものだと思えます。

晋三さん、あなたが信じて、とって来られた行動は正しい。私はいつまでもあなたを支え応援いたします。



このページに対する、
ご意見・ご希望をお寄せ
ください。多くの方のご
投稿をお待ちしています。

雨つづきの冷夏で未曾有のコメ不足となり、便乗値上げ、ヤミ米が横行し、緊急にコメを輸入したところがウマイとかウマクナイとか身勝手な言い草。ところが、その翌年は梅雨も無いままに真夏に突入、気温は土用のウナギのぼりで全く雨は降らず、渇水、渇水、超渇水。何でも日本の気象観測はじまって以来というから一二〇年来、こんな異常気象は無かったということになる。

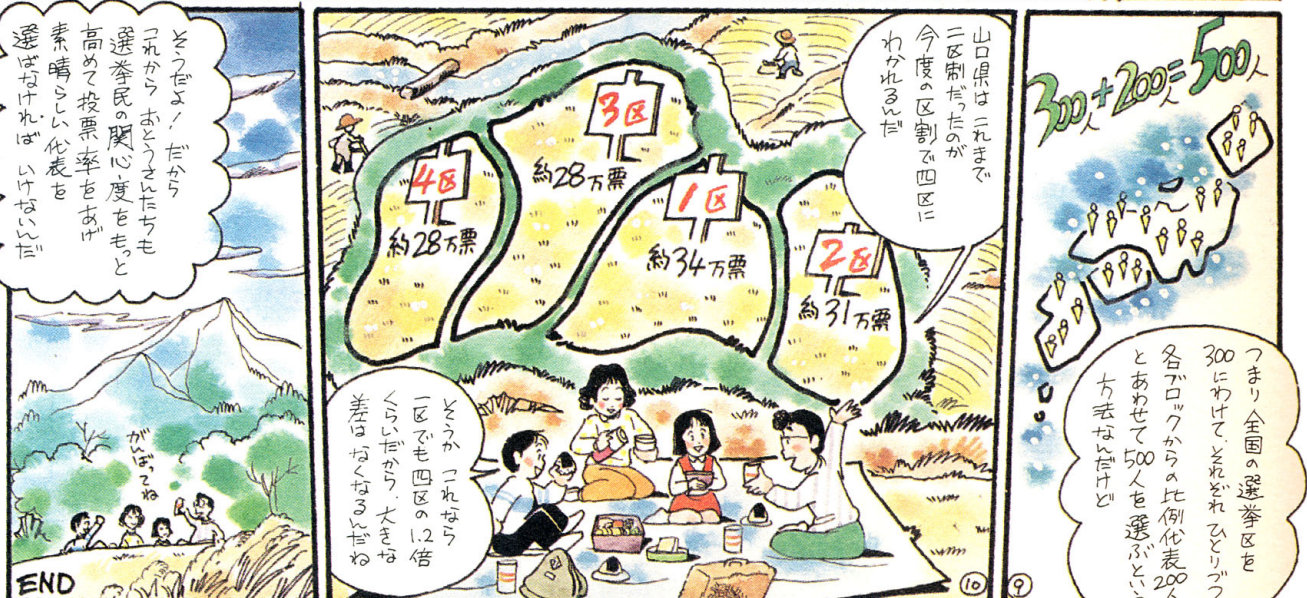
地球が泣いている。地球が苦痛にあえいでいる。

誰が悪いのでもない。人間が悪いのだ。限りなく大きな宇宙を、こんなちっぽけな人間が好き勝手に「開発」したからなんだ。

そのあげく、超渇水の夏から秋にかけて、ダムも川も干あがつたために、あつちもこつちも節水どころか断水つづき。給水車や給水船が走り、江戸時代のような雨乞い行事がテレビで放映されたり……。

だが、嬉しいかな。わが山口県は水に関する限り、殆どの苦勞を要さなかった。ありがたきかな、わがふるさと。

われらが頼みとする青年代議士あべ晋三さん、このような「日ごろ目に見えないありがたさ」を、ふるさとのために次々と「尽力賜りたい。但し、くれぐれも健康にご留意あれ」



十のあせ



角島大橋と代議士

『フロンティア』第三号に豊浦郡在住という団体役員の方が、角島大橋（仮称）の起工実現の喜びを寄せて下さいました。

離島振興のために二十年前から安倍晋太郎先生が尽力して来られて、ようやく着工の運びとなったことへの喜びですが、それは代議士をはじめとする私たち後援会関係者も全く同じ思いで、着々と進みつつある工事を見つめております。

この橋の総予算は百二十億円で、晋太郎先



角島大橋完成予想図

生の決断により、当時、先生の秘書であった代議士が大蔵省との間に立つて非常に苦勞されたことをよく知っているからです。

ちなみに、この総工費は島民一人当たりに換算すると一千万円以上になり、この投資額は日本一として記憶されることでしょう。

前記の団体役員さんはお便りに「明るい前途」と書いて居られますが、まさにその通りで、その橋によって島民の皆様にとつて明るい未来が訪れると確信いたしております。

新ゴールドプランについて

「ゴールドプランって何でしょうね。新聞で読んで、長寿や福祉に関係あるってことだけは判るんですけど……」

近ごろ、こんな話をよく耳にします。確かにこの言葉にはたびたびお目にかかりますが、「一体何のこと？」と問われると、やはり返答に困ってしまいます。

小さなスペースで詳しい説明はむずかしく、敢えて簡略に言えば次のようになります。

ゴールドプランとは、平成元年十二月に「消費税導入の趣旨」にそつて策定された事業で、それは翌年度に始まり、平成十一年度を最終目標年度に掲げていて、「四人に一人が六十五歳以上の高齢化社会となる21世紀」を前に、みんなが健康で生きがいをもち、安心して生涯を過ごせる社会の「基盤」を今世紀中に作るうというものです。つまり、高齢者が「自立して過ごすこと」や、心身障害を持つことになつてもなお「尊厳」を保つよう支援したり、在宅福祉や施設福祉などの公共サービスを提供することなどを目標に掲げた「高齢者保健福祉推



与党福祉プロジェクトの自民党委員として新ゴールドプラン、年金問題、少子問題を討議

進十か年戦略」を推進してゆくということなのです。

しかし、当初の計画では、加速的に伸びつつある超高齢化社会に対応できぬ面も現れ始めて、このたび、これらを全面的に見直すことになりました。そのために「財源の確保」を図りつつ、「高齢者保健医療福祉サービス基盤の緊急整備のための計画」が新たに策定されました。これが新ゴールドプランと呼ばれるもので、与党福祉プロジェクトの中の一つです。代議士もこの委員会の一員として、積極的に活動されております。この紙面では詳しい数字は掲載できませんが、内容は次の通りです。

まず、「在宅サービスの緊急整備」として、「ホームヘルパー」の倍増、「ショートステイ」の増床、「デイサービスセンタ

紙名「フロンティア」について

「frontier」——すっかり日本語化された言葉ですが、本当の意味は案外知らないものです。「アメリカ開拓期における開拓地の最前線」と「新世紀大辞典」にあり、「広辞苑」には「(科学などの) 最前線。未開拓の分野」の意もあると書かれています。二十一世紀も、もうすぐです。希望の近未来への突入です。幸せと平和を願う新たな時代は、新しい世代が一丸となつて切り開いていかねばなりません。いわゆるフロンティア・スピリット……。

あべ晋三さんは、常に「未来は不変なものでなく、我々の努力によつて創り出されていくもの」と考える」と言っています。私たちがこの会報紙名を「フロンティア」としましたのは、その心意気にぴったり合う言葉だと思つたからです。

「フロンティア」は随時発行しますので、未永い「愛読と益々のご支援をお願い致します。

」や「在宅介護支援センター」などの増設です。次に、「施設サービスの緊急整備」として、「特別養護老人ホーム」「老人保健施設」「高齢者生活福祉センター」「ケアハウス」を充実させ、「痴呆性老人のための生活ホーム」の設置を促進させます。そのほかにも、「寝かせきり老人ゼロ作戦」の展開や「高齢者の社会参加と生きがい対策」の推進などが組み込まれ、「ボランティア活動」や「福祉教育」「効率的・総合的サービス」等を支援することを目指しています。

ごく簡単な説明ですが、ご参考になれば嬉しく思います。